

『アカウンティング演習 A』 課題

テーマ「販売量と流動比率の関係分析」

志 村 正

1. 流動比率について

流動比率は、企業の短期の支払能力を測定する代表的な指標である。流動比率は次の公式で求められ。

$$\text{流動比率} = \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100\%$$

この比率は昔は銀行が企業にお金を貸すときの判断基準としてに用いたので、銀行家比率とも呼ばれ、200%以上が望ましいとされる。

2. 分析の目的と方法

本レポートでは、この流動比率が販売量の変化に対してどのような関係があるのかを分析することが目的である。

そこで、授業中に作成した会計モデルの9年度のデータを用い、販売量を除く基礎データの数値を次のように設定する。

購入量	150	購入価格	80	生産量	150
販売価格	240	販売量		販売促進費	15
原料市場調査	1	製品市場調査	1	セグメント調査	3

販売量を120本から140本まで、5本ずつ増やしていったときの流動比率の変化を見たい。

3. 分析結果

上記の方法で行った場合、表1のような結果を得る。

表1 販売量と流動比率

販売量(本)	120	125	130	135	140
流動比率	488.56%	496.56%	504.57%	512.57%	518.69%

表1を折れ線グラフで示すと、図1のようになる。

上述のように、流動比率は理想的には200%以上が望ましいとされるが、総じて、この会社の流動比率は約500%と極めて高いため、債務の返済能力、したがって財務の健全性が非常に高いことが分かる。図表から、販売量が増加するに従って流動比率が確実に増加していることが見て取れる。このことから、この会計モデルでは、流動比率を増やすには、売上高を増加させることが必要であることが判明する。

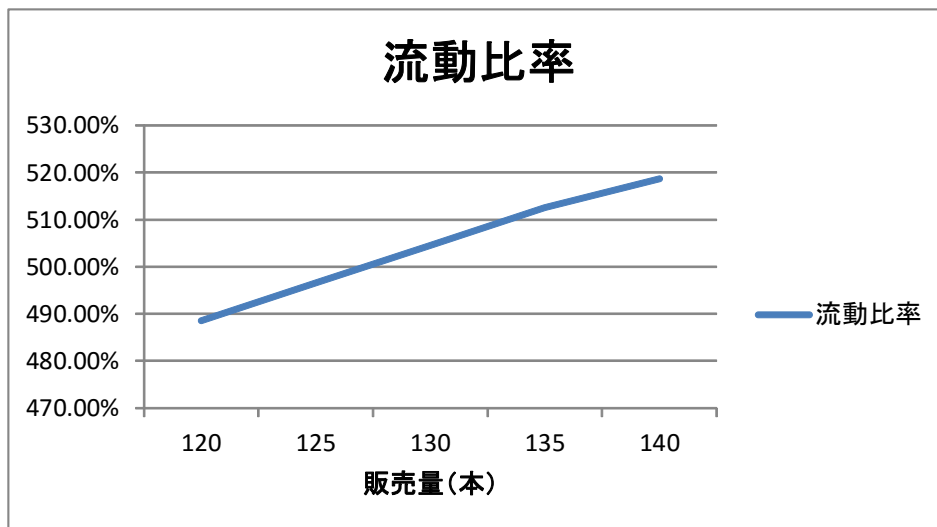


図1 販売量と流動比率の関係図

以上の分析結果の意味を探るため、さらに詳細に調査することにする。販売量と流動比率の構成要素である流動資産と流動負債の変化を示すと表2のようになる。

表2 販売量と流動資産・流動負債との関係

販売量(本)	120	125	130	135	140
流動資産	¥29,313	¥29,794	¥30,274	¥30,754	¥31,122
流動負債	¥6,000	¥6,000	¥6,000	¥6,000	¥6,000

表2から、販売量を増やせば流動資産が増加することになるが、流動負債にはまったく影響を与えないことが分かる。さらに、流動資産の中身を調査することによって、販売量の変化がどの資産項目に影響を与え、結果として流動比率に影響しているのかを知ることができる。その結果を示せば、表3のようになる。ただし、売掛金は貸倒引当金を控除した金額を示している。

表3 販売量と流動資産の構成要素との関係

販売量(本)	120	125	130	135	140
現金	¥8,132	¥8,732	¥9,552	¥9,932	¥10,419
売掛金	¥13,968	¥14,550	¥15,132	¥15,714	¥16,296
製品	¥5,613	¥4,912	¥4,210	¥3,508	¥2,807

表3から、販売量の増加によって、流動資産の増加をもたらしているのは、現金と売掛金であり、反対に棚卸資産を構成する製品の金額は販売量に伴う製品在庫減の影響を受けて減少していく。5本増加するにつれて、現金は380円から820円と不規則ではあるが増加し、売掛金は582円ずつ増加する。他方、製品は701円ないしは702円ずつ減少する。

したがって、正味増加高は販売量とともに増加する。

4. 分析結果の解釈

以上の分析結果を、概ね次のように解釈することができる。この会計モデルでは、販売量の増加が売上高の増加につながり、その 1/2 が確実に未回収の売掛金として残り、それとともに現金をも増加させ、両者の合計金額は棚卸資産の減少額を確実に上回る。その結果として、流動比率は販売量の増加に応じて上昇した。

このような分析結果は、売上高の構成要素となる販売価格と流動比率との関係にも当てはまると考えられる。ただし、販売価格の変化は販売量の変化とは異なり、製品の金額には影響を与えないので、販売価格の変化が流動比率に与える影響は販売量の変化が流動比率に与える影響よりも大きいと考えられる。